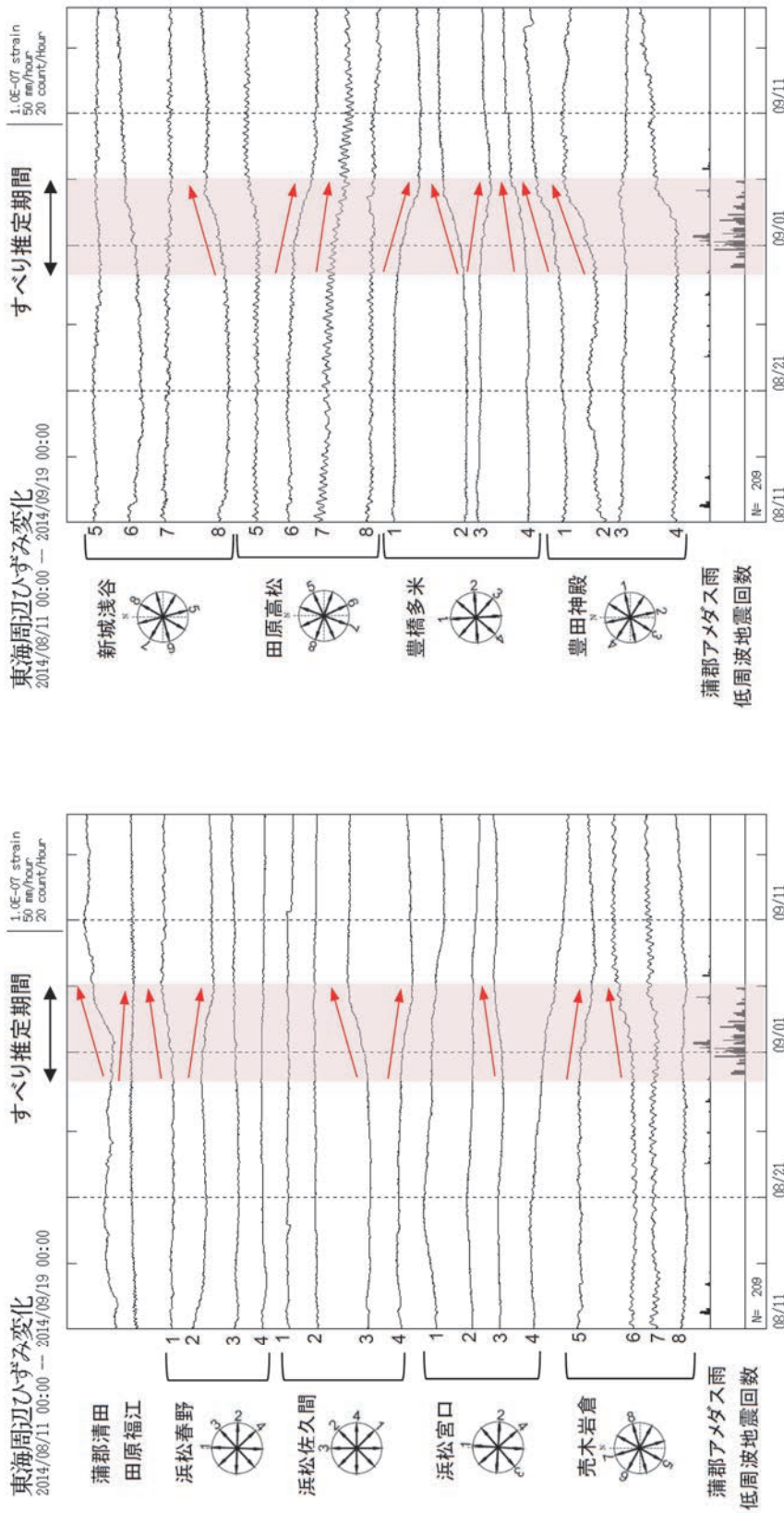


ひずみ変化と推定されるすべり領域



ひずみ変化から推定されるすべり領域

8月30日00時～9月5日24時
Mw5.7程度

- すべり推定に使用したひずみ観測点
- 上記以外のひずみ観測点
- 深部低周波地震震央
(08/30.00h～09/05.24h)

浜松春野は静岡県、豊橋多米、豊田神殿は産業総合研究所のひずみ計である。

すべり候補領域は、中村・竹中(2004)¹⁾によるグリッドサーチの手法※により求めた。プレート境界と断層面の形状はHirose et al.(2008)²⁾による。

※ すべり候補領域の位置とその規模(Mw)を、すべりがプレート境界面上でプレートの沈み込み方向と反対に発生したと仮定し、考え得る全ての解を前提として得られる理論値と観測値を比較し、合致するものを抽出する手法

- 1) 中村浩二・竹中潤、東海地方のプレート間すべり推定ツールの開発、駿震時報、68、25-35、2004
- 2) Hirose F., J. Nakajima, A. Hasegawa, Three-dimensional seismic velocity structure and configuration of the Philippine Sea slab in southwestern Japan estimated by double-difference tomography, J. Geophys. Res., 113, B09315, doi:10.1029/2007JB005274, 2008

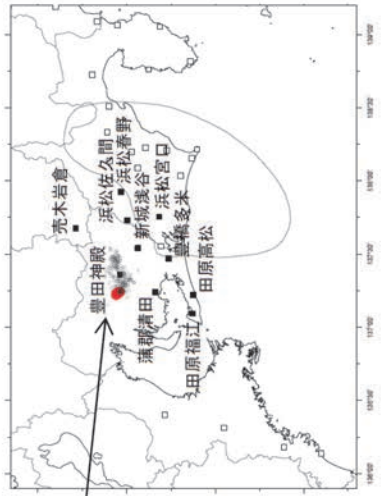
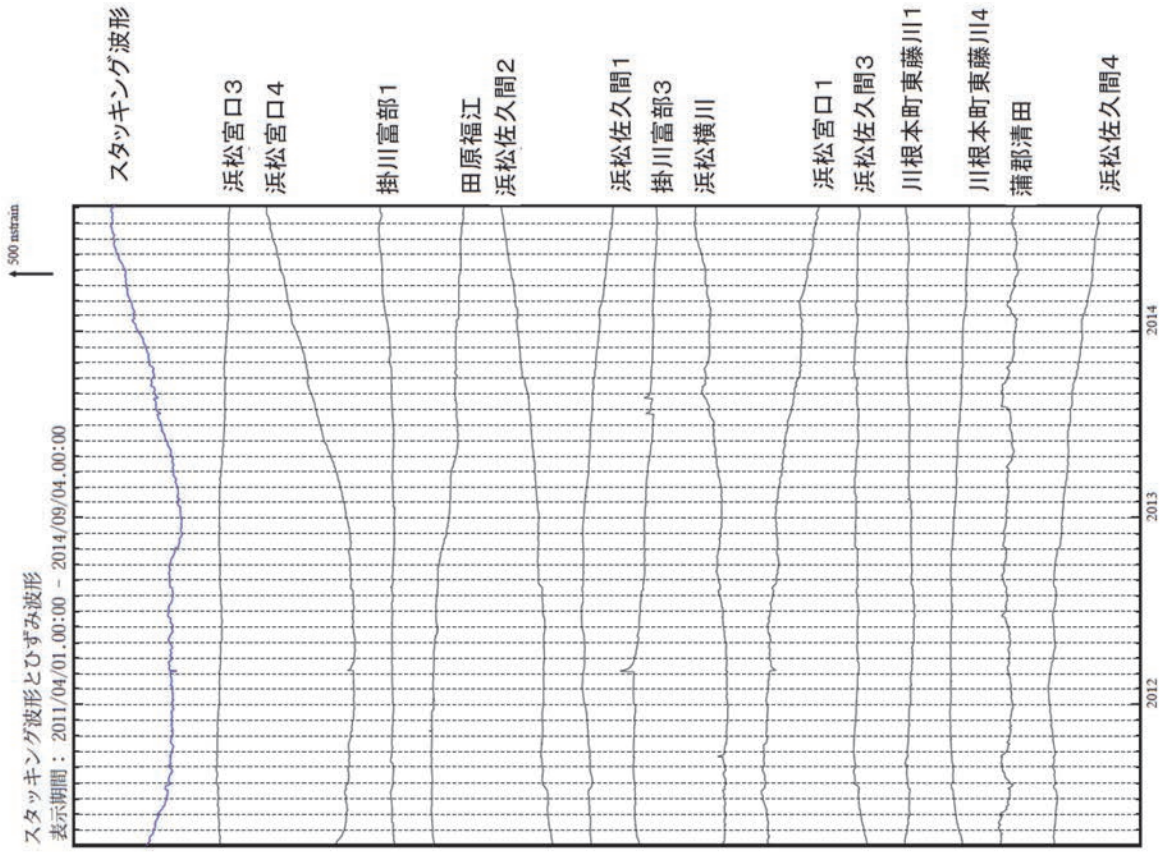


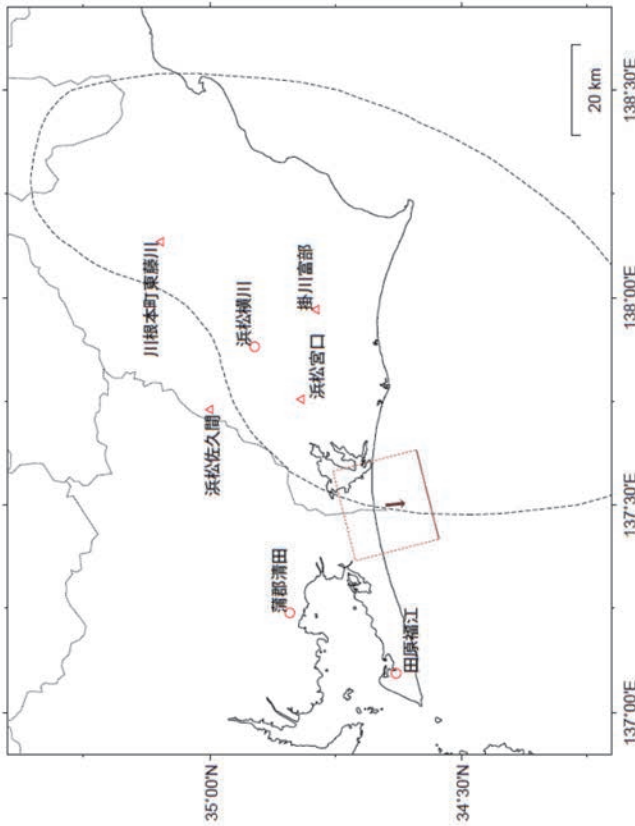
図6 ひずみ変化と推定されるすべり領域

ひずみ計の観測波形と長期的ゆっくりすべり



国土地理院によるすべり推定結果において、大きくすべった領域を矩形で近似し、その矩形断層を基に各観測点のデータをスタッキングした結果が右のグラフである。ノイズは大きいものの、2013年初め頃から伸びの傾向が見える。

スタッキングの基にした矩形断層とひずみ観測点配置図



(参考文献)
宮岡一樹・横田崇(2012): 地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発, 地震, 2, 65, 205-218.

図 7 ひずみ計の観測波形と長期ゆっくりすべり